Keystone Symposia in Keystone

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Igawa, Hirobumi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00050414

『学会見聞記』
Keystone Symposia in Keystone

金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 恒常性制御学
（指導教官　金子周一教授）
井　川　寛　章

2017年1月，アメリカ合衆国コロラド州キーストンで開催された，Keystone Symposiaに参加してきました．

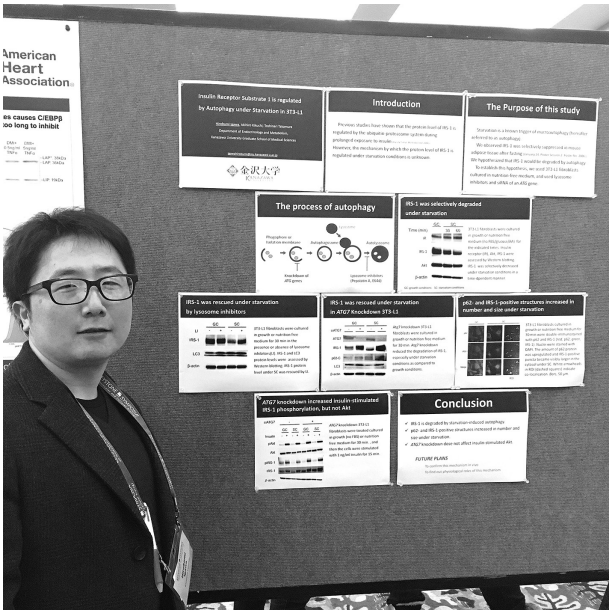
学会が開催されたコロラド州キーストンは，デンバー国際空港から車で約2時間程度の距離にある標高2800mのスノーリゾートで，学会会場の周りにはいくつものスキー場があり，景色がとても綺麗な場所です．気温は常時氷点下で，夜になると－20℃くらいまで冷え込みます．酸素も薄く，乾燥しており体力的には厳しい面もありましたが，とても充実した日々を過ごすことができました．

Keystone symposiaには，様々な分野のミーティングがあり，一年を通して世界各地で開催されています．今回，私が参加したのは，DiabetesとObesity and Adipose Tissue Biology分野の共催ミーティングでした．世界中から300人程度の研究者が参加し，約1週間泊まり込みでおこなわれます．朝8時頃から始まり，途中休憩をはさみながら夜10時頃まで行われます．糖尿病や肥満研究分野のトップ研究者による講演がいくつも用意されており，とても密度の濃い学会でした．

3日目の夜には，ポスター発表を行いました．初めての国際学会での発表であり，不安なことだらけで，ポスターを準備する段階から緊張していましたが貴重な経験をすることができました．有名な研究者が，私のポスターの前に立ち止まり，私の説明に耳を傾け，コメントをしてくれました．彼が立ち去った後の，興奮や喜び，うまく説明できたかといった不安が入り混じった複雑な感情は，私の研究が広い科学の世界の一部を形成していること，世界と繋がっていることを実感させてくれました．また，様々な国の研究者に，私の研究に興味を持ってもらえたことは，少なからず自信になりました．課題も明らかになりました．月並みながら一番の問題は，英語力，英語でのディスカッション能力です．用意していたことはある程度対応できましたが，予想外の指摘や質問への対応は難しいものでした．この経験を次に生かせるよう，研究生活を過ごしていきたいと思います．

発表以外にも，食事の時に同席した，アジアから留学し，現在アメリカでポスドクをしている研究者からアメリカでの研究生活を聞いたり，ホテルに戻り同行した先生たちと様々なことを話す時間を持てたりしたことは，日本での忙しい日々の中ではできないとても貴重なものでした．

学会終了後に，世界有数のスキー場でスノーボードをすることもできました．日本のスキー場と桁違いの規模で，学会同様圧倒されることがたくさんありました．5年ぶりのスノーボードでしたが，ロッキー山脈の絶景を見ながら，パウダースノーでするスノーボードは格別のものであり，また海外学会へ参加できるよう頑張ろうとモチベーションを掻き立てられました．

帰国時には，ちょっとしたハプニングにも見舞われました．カナダ経由での帰国だったのですが，2016年3月からカナダ入国の際（トランジットでも）には「eTA (Electronic Travel Authorization)」が必要であることを同行者全員知らず，デンバー国際空港で足止めをくらいました．みんなでパソコンを広げて，四苦八苦しながら登録をしました．幸い私は飛行機に間に合いましたが，後輩は間に合わず我々と一緒に帰国できませんでした．ただ，デンバーから日本行きの直行便チケットを勝ち取り，カナダ経由の我々より先に帰国していました．後輩ながらとても頼もしく感じました．北米へ訪問予定のある先生方はどうぞお気をつけください．

海外に出ることで初めて経験できること，感じることがあることを改めて実感した学会でした．引き続き，海外学会で発表できるデータを出せるよう，研究を行っていこうと思います．学会を通して得たことを今後の研究生活に生かしていけるよう精進してまいります．